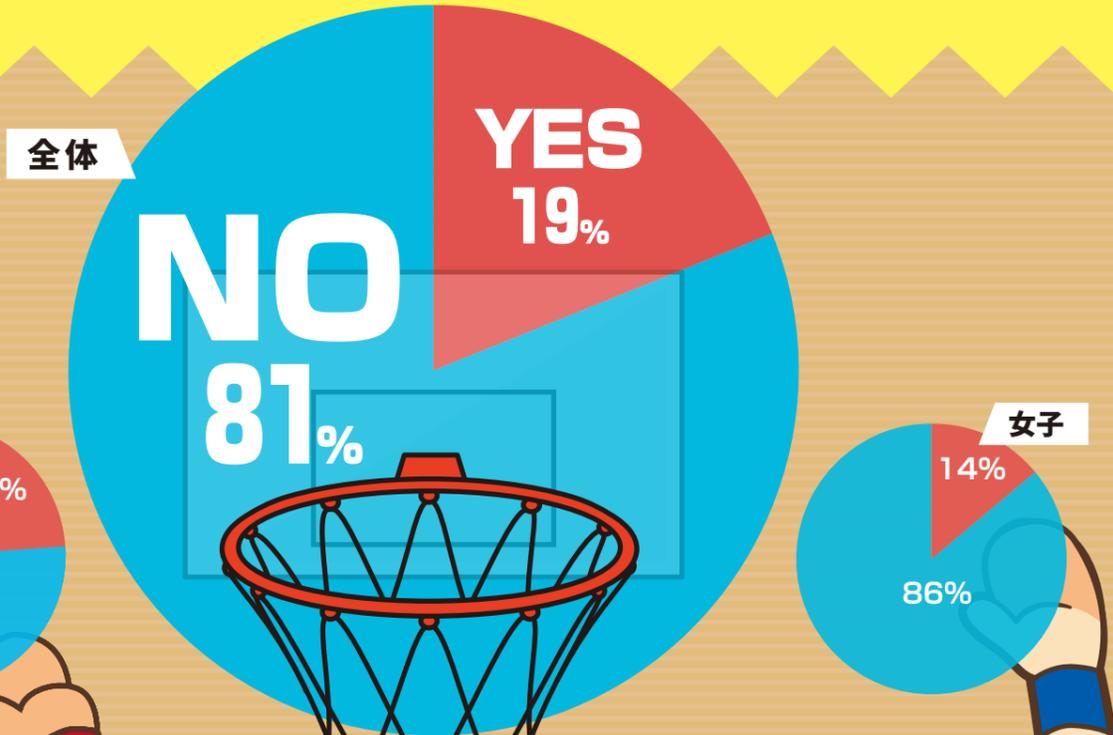


シェアリング

第21号
2019.3
～わかちあい～

「協力・話し合い」からはじまる ワーク・ライフバランス



中学生の81パーセントが「NO」と答えた質問とはいったい何でしょうか？
(答えは次のページに！)

現代生活は多様化し、仕事や家庭の形態もさまざま。生活するうえで、切っても切れない関係の「仕事と家庭」ですが、これらの両立について、今の中学生はどんな考えを持っているのでしょうか。今回、市内の中学2年生477名に、アンケートにご協力いただきました。

仕事と家庭が両立できたら、視野が広がったり人とのつながりも豊かになったりするし、すばらしいと思うんだけど…。

男性も女性も働き続ける家庭が増えてきた分、どうやってバランスをとるかをよく話し合うことが大切なんだろうなあ。

平成29年の調査*では、栃木県の共働き世帯は総世帯数の5割を超えています。どちらかが病気で倒れてしまったら、『男だから、女だから』とは言ってもらえませんよね。男性で家事が得意な人もいれば、女性でバリバリ外に働きに出たい人もいます。考え方はそれぞれですが、『男性は子育てが苦手だから』『女性は家事が上手くなければ』というイメージにとらわれて役割を押し付けたり、背負い込んだりしていないでしょうか。

「家事労働」という言葉があるように、本来は家事育児も生活を成り立たせるための大切な「仕事」です。その仕事を押し付け合うのではなく、話し合いのもと分担やシェアをして、『男女ともに納得できる理想の生活というゴールを目指し、パスを繋いでいく』そんなバスケットのような連携プレーが求められているのではないのでしょうか。

*平成29年就業構造基本調査結果(総務省統計局)

編集後記 飯野文夫／萩原敏美／九鬼眞澄／松嶋淑恵／八木橋祐香子

★今号から編集委員会に新しいメンバーが加わりました。

8年前と比べて、こんなにも意識が変わるのかと驚いています。明るい未来を感じさせる中学生のみなさんの意見に勇気づけられました。この結果を読んで何かを感じ取ってもらえたらありがたいと思います。

下野市は自然災害がなく、とって暮らしやすい処ですね。住みはじめて30年経ち、引っ越しして良かったとつくづく感じる毎日です。共感もてる、納得できる情報紙を編集したいと思います。

男は仕事、女は家庭…の時代から大きく変化した現代。働き方の形態、選択肢も多様化しました。幸せの感じ方もそれぞれ。パートナーと話し合い、分かち合う事ができたら素敵ですね!お互いを認め合い、お互いの意志を尊重する気持ちを大切に。

企画・編集

下野市男女共同参画情報紙編集委員会

発行

下野市 総合政策部 市民協働推進課
〒329-0492 栃木県下野市笹原26番地
TEL:0285-32-8887
FAX:0285-32-8606
E-mail:shiminkyoudousuishin@city.shimotsuke.lg.jp

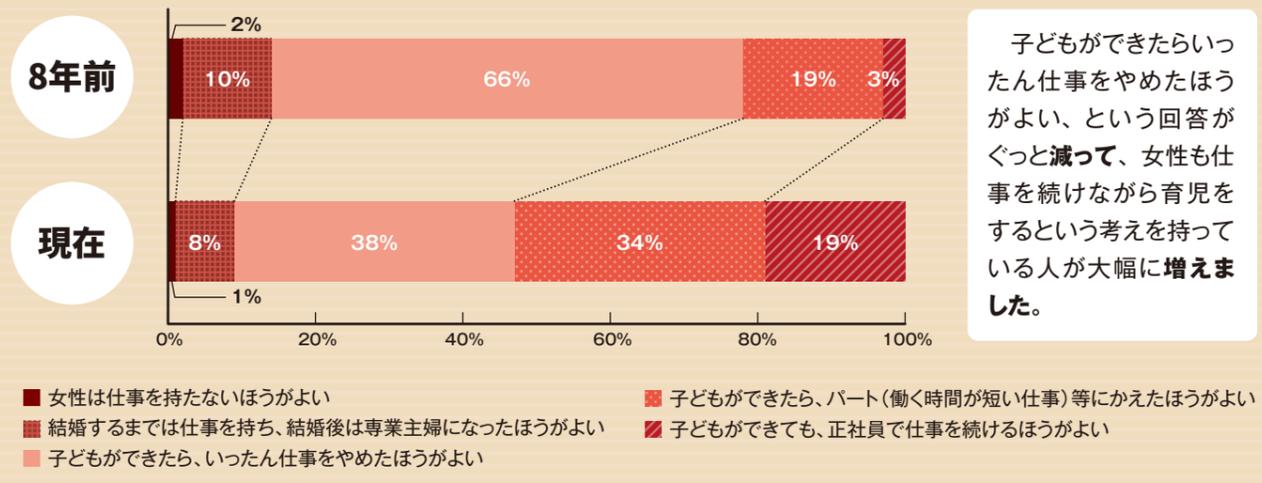


答え『男は仕事、女は家庭』に賛成ですか？

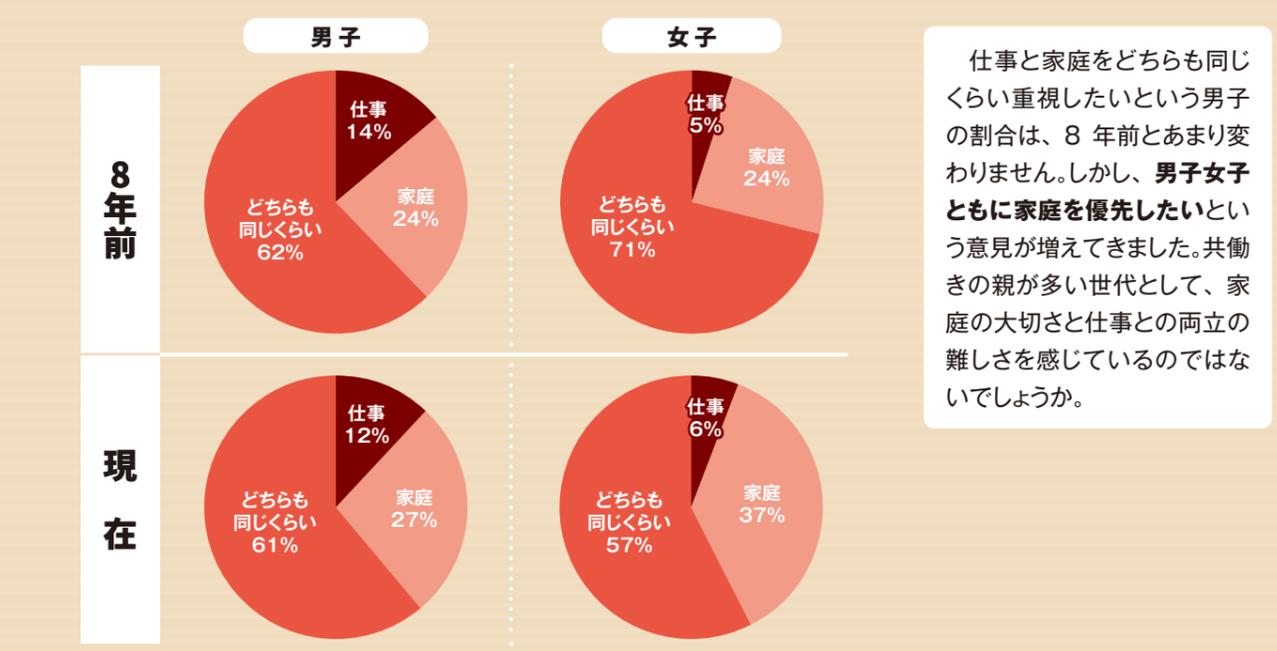
表紙のグラフは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだと思いますか」というアンケートの結果でした。多くの中学生が、「どちらかやれる方をやればよい」「思い込みにとらわれているのでは？」という意見を持っていました。一方で、5人に1人は『男は仕事、女は家庭』と考えているのようです。いろいろな仕事・家庭のイメージがありますが、皆さんはどう思いましたか？シェアリングでは、8年前にも同様のアンケート調査を行っています。今の中学生と8年前の中学生では、どのような違いが見られるでしょうか。



Q1. 女性が仕事を持つことについて、あなたはどのように思いますか？



Q3. あなたは将来、仕事と家庭のどちらを優先したいですか？



Q2. 女性は、家庭のことをきちんとしてから仕事に出るべきだと思いますか？

女子

◆ うちの場合、父のほうが単身赴任なのですが、母がいろいろと家のことをやってくれてとても助かっているから。

◆ 子どもが小さいうちは仕事をやらず、大きくなってから働いた方が、生活が安定すると思ったから。なるべく子どもと一緒にいるべき。

男子

◆ 将来は自分が仕事で家庭を支えたいので、女性には家庭をメインで生活してほしいから。

◆ 「男性が仕事に行く」という社会になってしまっているから、女性が家のことをやらないと少し男性側が大変になっちゃう。

YES
55%

女子

◆ 「女性だけに任せず男性も一緒に」であれば YES だと思うが、女性のみであればそれは違うと思う。

◆ 家庭での仕事は必ずしも全て女性がやらなくてはいけないというわけではない。家族で協力してやるべきだと思う。

男子

◆ 女性も男性も協力することが大切だと思う。

◆ 僕は家庭のことをやりたいし、女性のことを男性が決める権利はない。

NO
45%

YES と答えた人は、「男性は家事が苦手」「女性の方が家庭のことが得意なイメージがある」「女性が子育てをしっかりやらないと」等の意見を、男女問わず持っているようです。

NO と答えた男子のなかには、家事に積極的に参加しようとするコメントも見られました。

Q4. 男性と女性が一緒に家事や育児をしやすいするためには、どのようなことが大切でしょうか？

家事や育児をしやすいために大切なこと	男子	女子
仕事の休みが取りやすくなったり、長時間労働がなくなったりすること	44%	46%
男性が、家事や育児にもっと参加すること	29%	22%
家族や周りの人とコミュニケーションをとって、協力すること	19%	22%
家事と仕事が両立できるように、便利なサービスを受けられること	8%	10%

男女ともに、残業時間が多い、休暇が取りにくい等の問題を解決することが大切だと考えているようです。たしかに、家にいる時間が短いと家事・育児への参加が難しくなりますよね。

近年は「イクメン」という言葉が広まったこともあり、男性の家事・育児への参加にも目が向けられてきています。

